

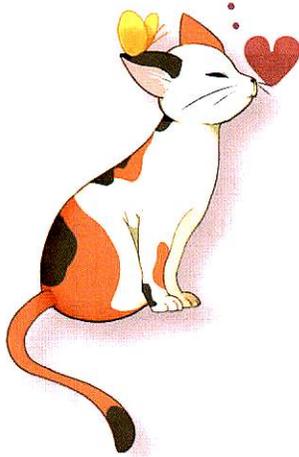
STEP 2

安心な進路選択に役立つ情報

解説編 40

通信制高校 高等専修学校 技能連携校  
サポート校 通信制高校提携校 高卒認定試験  
だからできることがあります

不登校で悩む生徒の皆さんには精神的に不安定な面や学力不振など、さまざまな事情があります。次のページからはそれぞれに合った対応ができる各学校のしくみを説明します。また、保護者なども不安に思うことが多いポイントはQ & Aにまとめました。



# 中学・高校不登校生への 面倒見が充実しています



不登校になったきっかけは、中学生も高校生も「『無気力』の傾向がある」や「『不安』の傾向がある」といった思春期を背景とした本人に関わる課題が大きなものとなっています。不登校状態にあったことで自信も失いがちになります。

これらの課題に対して通信制高校などは柔軟な学び方で対応しています。

※「平成28年度 児童生徒の問題行動・不登校生徒指導上の諸課題に関する調査」（文部科学省）

不登校や高校中退を経験した生徒が抱えている課題

## 精神的に不安定



- 通信制・単位制のしくみによりカリキュラムや授業時間数にゆとりがあり、少人数クラスもあります。
- 通信制高校やサポート校では、生徒一人ひとりとじっくり向き合い時間をかけて対応しています。

## 友達関係が心配



- 通信制高校やサポート校には不登校経験のある生徒が多く、「互いの気持ちがわかる」関係が見られます。
- 体験的学習も多く、共通の興味を見つけて友達もできやすくなっています。

## 学力の不振



- 習熟度別のクラス編成、小・中学校レベルからの復習など、生徒の「わかる」ところから勉強を進めていく場合も多く見られます。個別指導を行っている学校もあります。

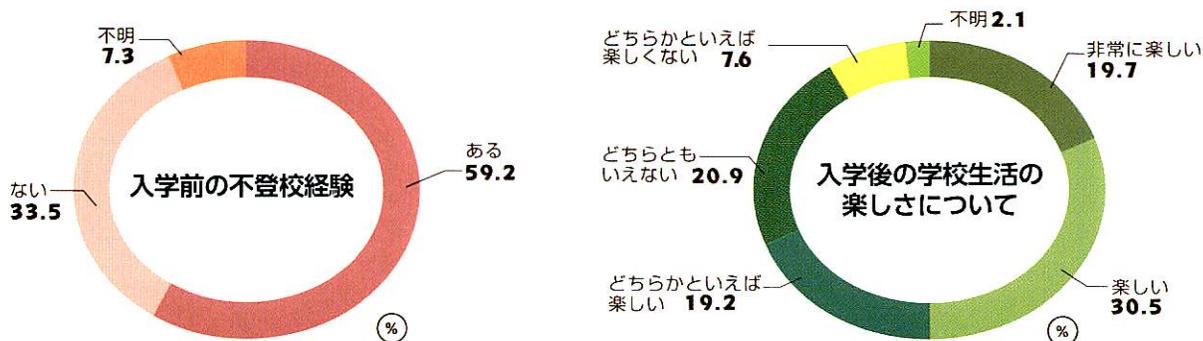
POINT

## 約6割が不登校 不登校を経験した生徒も自分らしい学校生活を送っています

通信制高校やサポート校の生徒のうち、約6割は不登校の経験を持ちながら入学しています。その後、入学した学校での生活を通じて「楽しい」と感じる生徒が約7割を占めるまでになります。自分らしく学校生活を送れるようにだんだんとなっていきます。

通信制の学習は基準がゆるやかになっているために、それぞれの生徒が自分の都合に合わせて組み立てやすくなっています。不登校を経験している生徒の「学校に行きたい」という要望や「もう一度基礎から勉強したい」という要望などに対し、いろいろな選択肢を用意して応えています。

本誌に収録している学校は、一つ一つの規模はそれほど大きくありません。「先生方の目が生徒全員に行き届く」程度の規模の学校が多くなっています。そうした環境も生徒にとって学校での安心感を与えているようです。



※出所：「通信制高校の生徒・保護者アンケート調査 報告書」（新しい学校の会、私立通信制高校生2,468名による調査、2014年12月）

## 行事も多彩です

行事やイベント体験を通じて友達もでき、元気を取り戻しています

「通信制高校だと学校には行かないから行事やイベントなんてないのでは？」と思うかもしれませんが。本誌に収録している学校では、いろいろな行事やイベントを開催しています。授業の一環として行うものもありますが、基本は生徒の学校生活の楽しさをアップさせるために行っています。なかには学校の行事やイベントというと「ちょっとめんどろ…」という生徒もいるかもしれません。「そういう集団活動は苦手」という生徒もいるでしょう。しかし、それぞれの行事やイベントの裏側では、担当教員によるフォローが行われています。

「まだ参加は無理だろう」「ちょっと背中を押してあげる時期かな」など、一人ひとりの状況に応じて参加を促すタイミングもはかっています。卒業までに必要な特別活動の参加時間数（30時間）はありますが、普通の学校生活で

自然と基準を満たせるため「参加しなければいけない」というプレッシャーは少ないです。そのため、自由参加を基本とするという気軽さがあり、生徒も構えることなく、気楽な気持ちで参加できるといったこともあるようです。こういった行事やイベントを通して、同じ体験をした仲間ができることも、安心して学べる環境につながっています。



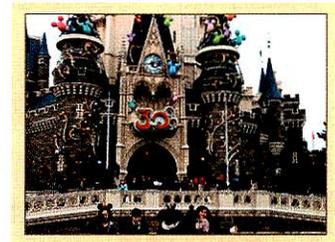
▲農業体験



▲国際交流



▲卒業式



▲校外学習

## ●年間スケジュール●

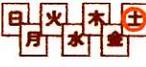
- |    |                              |     |                 |
|----|------------------------------|-----|-----------------|
| 4月 | 入学式／入学ガイダンス                  | 10月 | 芸術鑑賞会<br>スポーツ大会 |
| 5月 | 進路講演会<br>遠足                  | 11月 | 文化祭／進路ガイダンス     |
| 6月 | 英語検定・漢字検定<br>球技大会<br>進路ガイダンス | 12月 | クリスマスパーティー      |
| 7月 | 夏休み／社会科見学                    | 1月  | 音楽祭／年始イベント      |
| 8月 | 登山<br>キャンプ実習<br>全国定通体育大会     | 2月  | スキー・スノーボード教室    |
| 9月 | 農業体験／防災訓練                    | 3月  | 卒業式／春休み         |

## 選べる登校パターン

登校パターンは事情に合わせて登校日数を選べたり、変更できたりします

通信制高校（私立）やサポート校には、登校日を選べる学校があります。通信制は、科目ごとにスクーリング回数とレポート提出数が決められていて、この基準を満たしたうえで、学校によってさまざまな登校パターンを置くことができます。

生徒の状態ややりたいことの意向などに合わせて選ぶことができるようになっています。また、学校によっては登校パターンを途中で変更することもできますから、事情が変わった場合にも安心です。

| 登校パターン  | こんな人に向けています  |
|---|--|
| 月に<br>1～2日登校<br> | 学校生活以外にやりたいことがある場合や、事情があって登校を少なくしたい人に向けています。学校に行かないときの生活リズムを整えるのがポイントです。                 |
| 週に1日<br>登校<br>   | 週に1日、土曜日などに登校日が設けられているコースがあります。毎日の登校が心配な人や平日に学校以外の活動をしたい人に向けています。                        |
| 週に2～3日<br>登校<br> | 学校以外の生活と学校生活をあまり負担なく両立させたい人に向けています。アルバイトとの両立、予備校とのダブルスクールなどの活用もできます。                     |
| 週に5日<br>登校<br>   | 学校生活を楽しまたいという人に向けています。高校普通科目の勉強以外に資格取得に向けた授業や実際にいろいろなことを体験する授業もあります。                     |
| 集中<br>スクーリング<br> | 2泊3日から1週間程度など学校により期間に少し幅がありますが、宿泊や連続登校で授業を受けます。NHK テレビ・ラジオ高校講座、インターネット授業などを活用して普段は勉強します。 |

# 解説編 生徒の皆さんの進路変更を 安心して進めるために

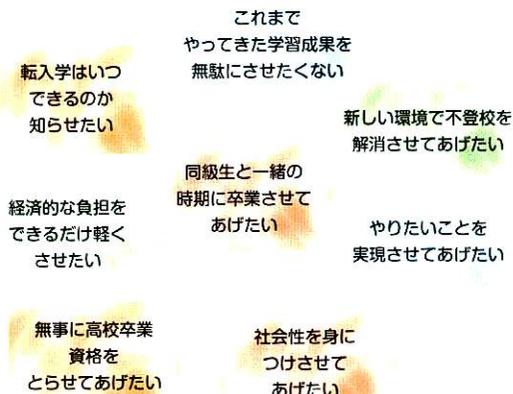


## 将来のプラスの道をさぐります

いろいろな事情があって進路変更を考えることになった生徒がいると思います。不登校や学校を休みがちで毎日通うことが難しかったり、学校生活以外にも時間をかけたいことができたり、一人ひとりが抱えている事情は異なるでしょう。

先生方や保護者の皆さんの気持ちは、進路変更があっても、その子どもたちの将来にプラスの道は何かということに尽きると思います。

本誌は、その進路に対応する通信制高校、技能連携校、高等専修学校、サポート校の学び方の実情や制度をふまえたしくみをご案内しています。



## あんしんポイント

### 通信制高校生徒にも就学支援金が支給されています

就学支援金は、通信制高校生徒にも支給されています。単位制の通信制高校では、1単位あたり私立校4,812円、公立校3,366円が支給されます。74単位分が卒業までに支給されますが、1年間に25単位履修した場合とみると私立校で120,300円、公立校で8,400円が支給されます。高校中退した生徒が再入学、編入学する場合には現行制度が適用されます。

### 就学支援金 私立通信制高校の場合

- ◎ 1単位の年間支給額…4,812円
- ◎ 年間25単位履修した場合…120,300円
- ◎ 卒業までに74単位分支給…356,088円
- ・保護者世帯の所得に応じて1.5～2.5倍の範囲で加算が受けられます。
- \*世帯年収910万円以上の生徒には支給されません。
- ・問い合わせ先：文部科学省高校修学支援ホットライン  
Tel: 03-6734-3176 (月～金、10時～17時)

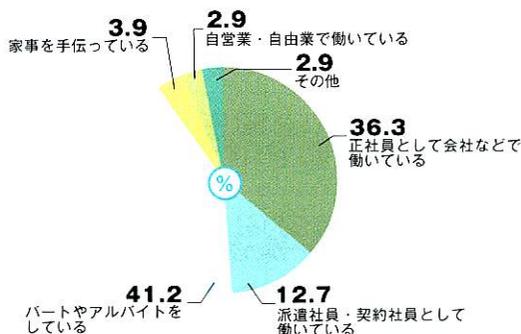
### 特別な支援が必要な生徒への対応

発達障がいを持っている生徒の中には学力的に高い人も多くいます。このような人は、高校卒業時、ただちに就職、自立と考えるのではなく、進学も視野にいたいというケースがあります。この場合は、発達障がいに理解があり、進路選別に柔軟に対応できる通信制高校、サポート校などが選ばれています。

### 将来の選択肢の幅が持てるように

内閣府が行った高校中退者の追跡調査によると、就労している人のうち非正規雇用者が半数以上います。将来の選択肢の幅を広げるためには高校卒業が重要なものになっています。このため、将来の職業観を育成しながら学ぶことのできる通信制高校が注目を集めています。

### ◆ 高校中退後、就労した人の雇用形態 ◆



※出所：「高校生及び中学校生活に関するアンケート調査」  
内閣府 2009年3月

POINT

生徒の皆さんの要望に応える  
通信制高校・高等専修学校・技能連携校・サポート校・高認予備校の対応

生徒の皆さんの要望

- ◎ 不登校や学校を休みがちだったが高校卒業資格はほしい
- ◎ 体調や気持ちの問題から登校の負担は軽くしたい

生徒の皆さんの要望

- ◎ 早いうちに専門知識や技術を身につけたい
- ◎ 実社会でもすぐに役立つような勉強がしてみたい

生徒の皆さんの要望

- ◎ 学力や社会性の面で自分の力に合うような学校を探したい
- ◎ 大学・専門学校進学を考えて準備をしたい

生徒の皆さんの要望

- ◎ 高校卒業までしっかりと面倒を見てもらいたい
- ◎ 不登校や学校を休みがちだったが、学校へは通いたい

生徒の皆さんの要望

- ◎ 短期間で高卒同等の資格を取得したい
- ◎ 高認合格後にできる時間の余裕を活用したい

通信制高校の対応

- ◎ 入学試験、転入学試験は面接や作文中心に受け入れ
- ◎ いろいろな登校パターンとスクーリングがあります

高等専修学校の対応

- ◎ 全授業の約3分の2は専門分野に関する知識や技術を学びます
- ◎ 専門課程を併設している場合は、施設や講師陣が充実しています

技能連携校の対応

- ◎ 進路選びのためのいろいろな講座や選択授業を開設しています
- ◎ 一人ひとりに合った学習支援で学力アップにつなげます

サポート校の対応

- ◎ 通信制高校のレポートを着実にこなし、単位修得を進めます
- ◎ 勉強は基礎から行ったり、習熟度別に行ったりしています

高認予備校の対応

- ◎ 高認合格に合わせたカリキュラムを作成しています
- ◎ 高認合格後の大学受験対策の指導を行っています

POINT

高校進路変更を考える生徒への対応について

通信制高校は、単位制のしくみと相まって生徒の学習成果（修得単位数）を引き継ぐことができます。また、登校日数の基準が軽い（25単位履修で年間約20日）ため、不登校や体調面などで課題を抱える生徒に適した進路変更先となっています。

転入のプロセス

通信制高校、サポート校、技能連携校などは、転入を随時受け入れている場合が多いです。

生徒ならびに保護者が転入先を探します。本誌は、その情報源の1つとして活用してください。

生徒ならびに保護者は、転入できそうな学校が見つかったら、その学校の転入時期などを確認します。

生徒ならびに保護者から担任の先生への相談があります。相談のうえ、必要書類の用意をお願いします。

生徒が転入試験を受けます。試験は、作文と面接などがあります。

編入のプロセス

編入は、編入試験を受けることになります。編入試験は、学年末、学期末などに行われます。

生徒ならびに保護者が編入先を探します。本誌は、その情報源の1つとして活用してください。

生徒ならびに保護者は、編入できそうな学校が見つかったら、その学校の編入試験の時期などを確認します。通信制高校は、2期制により編入試験も3月や9月など年に2回行っている場合があります。

生徒ならびに保護者から先生方への相談があります。相談のうえ、編入校への必要書類の用意をお願いします。

生徒が編入試験を受けます。

# 解説編 通信制高校のしくみ

生徒の皆さんの要望に応えられる！



さまざまな事情により進路変更を考えている生徒から、いろいろな要望が先生方のところに寄せられる場合があります。いろいろな事情は生徒一人ひとりで異なるのですが、その要望に応える進路として通信制高校が期待できます。学習量の基準をふまえたうえで、いろいろな登校パターンがあり、単位制により随時、転編入生を受け入れられるしくみとなっています。

## 生徒からの要望

- 不登校や学校を休みがちだったが高校卒業資格はほしい
- 体調や気持ちの問題から登校の負担は軽くしたい
- ゆっくりとした時間の中で人間関係をつくりたい

## 通信制高校の対応

- 転入学試験は面接や作文中心に受け入れています
- いろいろな登校パターンとスクーリングがあります
- インターネット授業等で登校回数を減らせます
- 単位制で必要な科目を早く修得することもできます
- 転入は随時募集。編入は新入学に合わせて3月と9月に募集したり、転入と同じく随時募集があります

## 通信制高校卒業までの流れ

通信制高校は、スクーリング、レポート、テストの3つで学習を進めます。74単位以上の修得が認められれば卒業となります。

### ① スクーリング

スクーリングは、登校して先生から授業を受けること。年間の登校回数は、約20日間。(25単位履修の場合)

#### POINT

NHK テレビ・ラジオの高校講座やインターネット授業などを視聴すれば60～80%登校回数を減らせます。

### ② レポート

先生から出される各科目の課題に応えます。年間のレポート提出数は、約60通。

#### POINT

提出数が多いので滞らずに提出していくのが課題になります。

### ③ テスト

2期制の多い通信制高校では、年に2回のテストがあるのが一般的です。

## 教科・科目の単位修得

30時間(3年間)以上の特別活動への参加

通算3年間以上の修学

74単位以上修得

## 高校卒業

こちらもお読みください!  
通信制高校関連情報

### インターネット授業も正規の授業

通信制高校では、インターネットを活用した授業や、NHK テレビ・ラジオの高校講座などが正規の授業として認められています。インターネットを活用した授業を受けてレポートをまとめ、それによりきちんと学習成果があったと高校が認めれば、スクーリングの一部が免除されることとなります。

### 広い地域から入学できます

公立の通信制高校は、その都道府県に住んでいる人しか入学できません。一方、私立の通信制高校は複数の都道府県から入学できる学校があります。本誌で紹介している通信制高校は、複数の都道府県を入学対象エリアとする高校です。これらの高校は、広い地域から入学できる高校という意味で「広域制・通信制高校」と呼ばれています。

★各学校の情報は57ページへ!

## 通信制高校の高校生活 ③ つのポイント

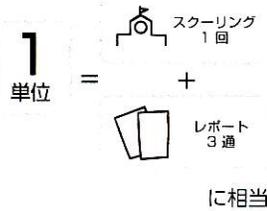
good Point!

### 学習量の基準と色々な登校パターン

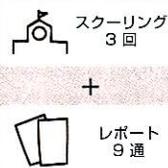
通信制高校で生徒が勉強する学習量は、高校学習指導要領で決められています。通信制高校の場合は、各教科・科目ごとにスクーリング（登校による面接指導）とレポート提出数が1単位ごとに決められています。全日制などに比べると学習量の基準はゆるやかです。右の図で見る通り毎日学校に通って勉強していることに比べると、負担の軽い基準です。ただし、これは下限の基準です。通信制高校では、この基準を踏まえたうえで生徒の要望により、週に1日、週に2日から3日通うコースや週に5日通うコースなどの通学ができるコースを設けています。また、年に1～2回の宿泊あるいは連続登校により行う「集中スクーリング」を設けている高校もあります。

### 通信制高校のスクーリングとレポートの数（年間）

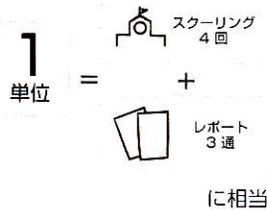
〔国・数・地歴などの一般教科〕



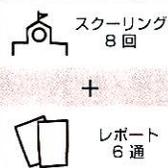
例：数学・3単位を修得する場合



〔理科・芸術・外国語など実験・実習を伴う教科の場合〕



例：生物基礎・2単位を修得する場合



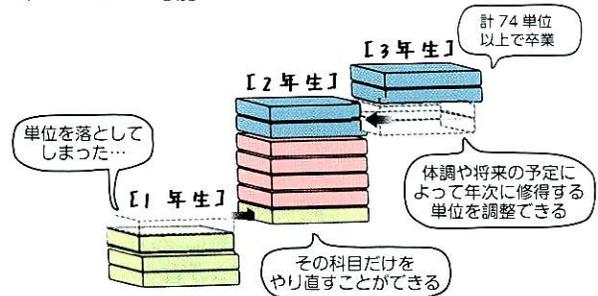
good Point!

### 単位制により自分のペースで学べます

通信制高校は、単位制による高校です。単位制と学習量の基準がゆるやかなことが相まって、自分のペースで高校生活を送ることができます。修得単位数が不足している生徒でも、転学後に履修単位を多くすることで、本人の頑張り次第では修得単位数を増やして確実に卒業することもできます。履修できる単位数の上限は学校によって異なりますが、1年間に34～40単位程度となっています。また、高卒認定試験の科目合格、学校外学修、留学による学習などを高校の卒業単位として認定することも学校によっては行われていますから、さまざまな学習成果が高校卒業のための単位として活かされます。

### 単位制のしくみを活かす通信制高校

各教科に割り振られた単位数を足していき、修得単位数が74単位以上となれば卒業となります。1つの科目を修得できなくても、同じ学年をやり直すことになる留年はありません。自分のペースに合わせて履修科目を選べるため、2年次以降スピードアップして同級生に遅れずに卒業することも可能です。



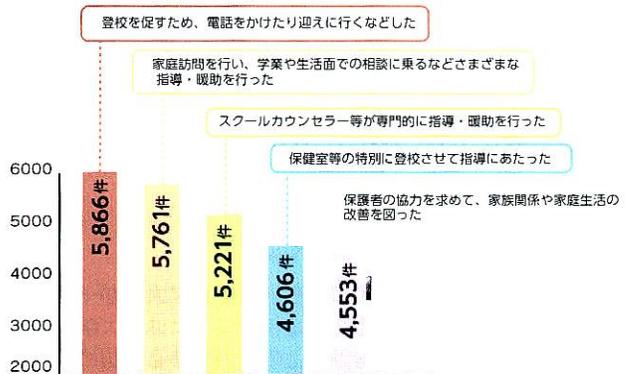
good Point!

### 不登校をリセットして活き活きした学校生活へ

通信制高校は、生徒のペースに合わせやすい高校です。3年間の高校生活の中で、スピードを上げたり、おさえたりできます。不登校が解消するまでゆっくりと勉強することもできます。また、事情があって進級できずに転入学する場合でも、単位を多く修得するように頑張れば、同級生と同じ時期に卒業を迎えることもできます。商業高校や工業高校などの専門学科の高校からの転入学も、右上の単位認定のように各学科に共通する教科・科目の単位認定をはじめ、専門学科に開設されている教科・科目についても校長の判断により単位認定されます。

### 余裕のカリキュラムで不登校生対応

「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」に特に効果のあった学校の措置上位5項目（中学校）



（平成26年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」文部科学省）

★通信制高校さがしに役立つ「通信制高校・サポート校合同相談会」の情報は78ページへ！

step 2 安心な進路選択に役立つ情報

# 解説編 高等専修学校 のしくみ

生徒の皆さんの要望に応えられる！



総授業時間の6割から7割を専門分野について学べるのが高等専修学校の特長です。興味のあることに集中できます。3年制以上の高等専修学校の多くが大学などに進学できる卒業資格となる「大学入学資格付与指定校」となっています。高等専修学校は「専修学校高等課程」とも呼ばれています。

## 生徒からの要望

- 早いうちに専門知識や技術を身につけたいと思うようになった
- 実社会でもすぐに役立つような勉強がしてみたい
- 大学・専門学校進学も考えたいのでそのための準備もしたい

## 高等専修学校の対応

- 全授業の約3分の2は専門分野に関する知識や技術を学びます
- 専門課程を併設している場合は、施設や講師陣が充実しています
- 大学入試資格付与指定校なら大学や専門学校へ進学できます

## 高等専修学校 卒業までの流れ

高等専修学校では、プロの現場さながらの施設や設備を利用することができます。第一線で活躍しているプロ講師が授業を行う場合もあります。

# 高等専修学校

(専修学校高等課程)

大学入学資格付与指定校

その他

専門分野について深く学べるカリキュラム

大学入学資格付与指定校の場合は、大学等へ進学の道

## 高等専修学校卒業

こちらもお読みください!  
高等専修学校関連情報

### 大学入学資格付与指定校で進路も広がる

高等専修学校の3年制の学校のうち、文部科学大臣が一定の要件を満たしていると認めた指定校の修了者は、大学入学に関し高等学校卒業者と同等以上の学力があると認められます。このような学校を大学入学資格付与指定校と呼んでいます。専門的な教育を受けながら、大学や専門学校への進学も目指すことができます。

### 基礎から実践まで充実した環境で学べる

高等専修学校は、基礎から実践まで専門分野を充実した環境で学べるのが良いところです。学ぶ内容は、①工業（CG、自動車整備など）、②農業、③医療、④衛生（調理師、製菓、製パンなど）、⑤教育・社会福祉、⑥商業実務（簿記など）、⑦服飾・家政（ファッションデザインなど）、⑧文化・教養の8分野に区分されます。

★各学校の情報は57ページへ！

生徒の皆さんの要望に応えられる！

# 解説編 技能連携校 のしくみ



高校普通科目と専門科目を効率よく学ぶことができるのが、技能連携校というしくみです。2つの学校の長所を取り入れて、生徒の要望に応じています。学校独自の科目は、社会に出てすぐに役立つようなものも多く設けられています。都道府県教育委員会から高校生が学習する場所としてふさわしいという指定を受けています。

## 生徒からの要望

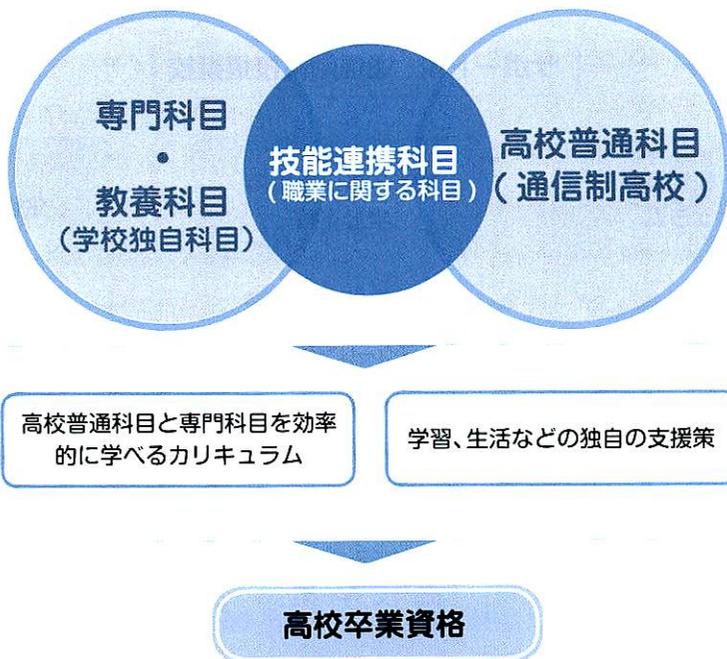
- 学力や社会性の面で自分の力に合うような学校を見つけたい
- 大学・専門学校進学も考えたいのでそのための準備もしたい
- 実社会でもすぐに役に立つような勉強がしてみたい

## 技能連携校の対応

- 高校普通科目と社会で役立つ専門科目を効率的に学びます
- 一人ひとりに合った学習支援を行い学力アップにつなげています
- 進路選びのためのいろいろな講座や選択授業を開設しています

## 技能連携校 卒業までの流れ

技能連携校は、通信制高校に同時入学して高校卒業資格も取ることができます。国数英など普通科目と専門科目を効率的に学ぶことができます。



こちらもお読みください！  
技能連携校関連情報

### 一人ひとりの個性に応じて力が発揮できるように

一人ひとりの個性に応じて力を発揮できるような選択授業が置かれていることが多いです。不登校を経験した生徒や進路変更した生徒への対応を行う学校もあります。そのような学校では専門分野とともに個別指導による学習や体験的な学習も行われています。

### 体験授業や学力アップ

社会性を身につけられるようにした体験授業も行っています。また、中学程度の基礎学力から高校卒業までの学力が着実に身につくようにする一方、希望者には大学や専門学校へ進学できるような学習指導を行っているところもあります。

★各学校の情報は57ページへ！

step 1 通信制高校生徒と保護者にアンケート

step 2 安心な進路選択に役立つ情報

step 3 ニーズに応える！学校紹介

step 4 進路探しのイベント情報

step 5 カンタンまとめて資料請求

# サポート校・通信制高校提携校のしくみ



通信制高校と提携してダブルスクールにより生徒の高校卒業までを支援する民間教育機関をサポート校・通信制高校提携校と言います。独自のカリキュラムと学習や生活面の支援策により高校卒業まで着実に導きます。体験的な授業を取り入れたり、プロの講師を招いたりして現実の社会を意識してもらいながら大学や専門学校への進学、就職などの道を見つけられるような工夫が行われています。

## 生徒からの要望

- 高校卒業までしっかり面倒を見てもらいたい
- 不登校や学校を休みがちだったが学校へは通いたい
- 高校の普通科目以外にも学びたいことがある

## サポート校・通信制高校提携校の対応

- 通信制高校のレポートを着実にこなし、単位修得を進めます
- 勉強は基礎から行ったり、習熟度別に行ったりしています
- 通学日数を選べるコースがあります
- 少人数制授業で、高校卒業まで親身になった指導

## サポート校 卒業までの流れ



こちらもお読みください!  
サポート校関連情報

### 📄 レポートはサポート校で取り組む

通信制高校のレポートは、年間約 60 通 (25 単位程度履修の場合) 提出が必要です。レポートの提出数が多いので、うっかりすると期限に間に合わずに続かなくなるケースもあります。この点、サポート校では授業の中でレポート作成を行ったり、その授業を休んだ場合でも個別指導などで対応したりしてフォローするところがあります。

### 📄 通学日の選択や訪問支援型指導

サポート校は、週数日通うコースをはじめ、生徒の状況によって通学日を選択できる場所もあります。不登校などで毎日の登校が心配な生徒には、少ない通学日を選ぶこともできます。また、先生が生徒の自宅を訪問して、一人ひとりの状況に合わせてマンツーマンで学習指導などを行う訪問支援型のサポート校もあります。

★各学校の情報は 57 ページへ！

## サポート校・通信制高校提携校の高校生活 ③ つのポイント

good  
Point!

**選択肢を多く設け、  
いつでも入学できます**

「不登校や学校を休みがちだったが、学校へは通いたい」という生徒からの要望があります。また、「高校の普通科目以外にも学びたいことがある」という要望もあります。このような要望に合わせてるようにサポート校・通信制高校提携校はいろいろな選択肢を用意しています。通学日数を選べるようにしたり、ゆるやかな登校時間としたりするのは通いやすさを第一に考えてのことです。体験的な授業を用意したり、さらにはより専門的な授業を用意したりするのは、やりたいことの発見と同時に、より内容を深めることにつながるようです。

good  
Point!

**社会の動きを反映した体験的な  
講座開設に熱心**

生徒の興味や関心を引きつける学習を行っています。社会で現実に行き起きていることや、“社会に出てから役立つように”という目的の講座がたくさん設けられています。音楽やアニメ系などのプロを講師に招いたり、ビューティー系のスペシャリストを講師に招いたり、講師自身が生徒のあこがれのまとなっていることもあります。各種の資格・検定のための学習は、資格取得の際の達成感とともに自信につながっているようです。資格や免許の取得は、卒業後の就職、大学などのAO入試にも“武器”となります。このような講座を通じて生徒は、将来の自分の姿をイメージできるようになっていくようです。

good  
Point!

**学校説明会や見学会を随時実施  
しています**

サポート校・通信制高校提携校は、民間教育機関ですからそれ自体の設置基準というものはありません。その点では、各校により学校水準は異なると言えるでしょう。学校パンフレットで、各校の学習のしくみ、教育内容や目標、進路実績などはわかりますから、本誌のFAX用紙や巻末ハガキ、専用WEBサイトなどを利用して請求してください。また、生徒がサポート校等に興味を持ったり、学習内容が合いそうだと感じたりした場合、「通信制高校・サポート校合同相談会」への参加や学校見学をしてもらうとより理解が深まると思われます。実際に学校を訪ねてみると、授業の様子や学校の雰囲気など多くのことがわかります。

通学日の選択

体験的な  
授業の選択

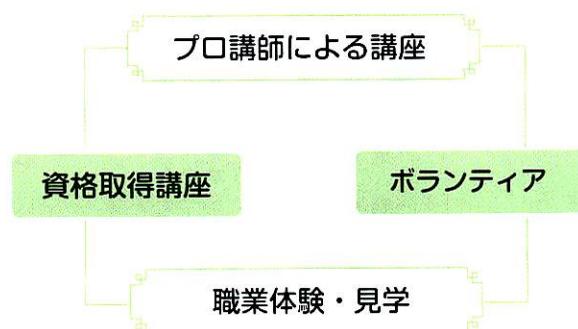
コース変更の  
選択

ゆるやかな  
登校時間

学習内容と  
レベルの選択

step  
2

安心な進路選択に  
役立つ情報



POINT!  
学校見学する  
ときのポイント

先生方の対応

授業見学

周辺の環境

在校生の様子

学校の雰囲気

# 解説編 高卒認定試験 のしくみ

生徒の皆さんの要望に応えられる！



高卒認定試験（高認）は、かつての「大検」に変わって2005年度から導入されました。高校卒業同等と認定する文部科学省の試験です。合計8～11科目の試験に合格すると高認合格となり、大学や専門学校への受験ができます。高校で単位修得している場合は、その科目は受験科目から免除されます。14年度から高校新課程に基づき、理科、数学の出題範囲、理科の試験科目が変更されました。理科の合格要件は、「科学と人間生活」と他1科目の合計2科目合格か、「科学と人間生活」以外の3科目合格が必要となります。

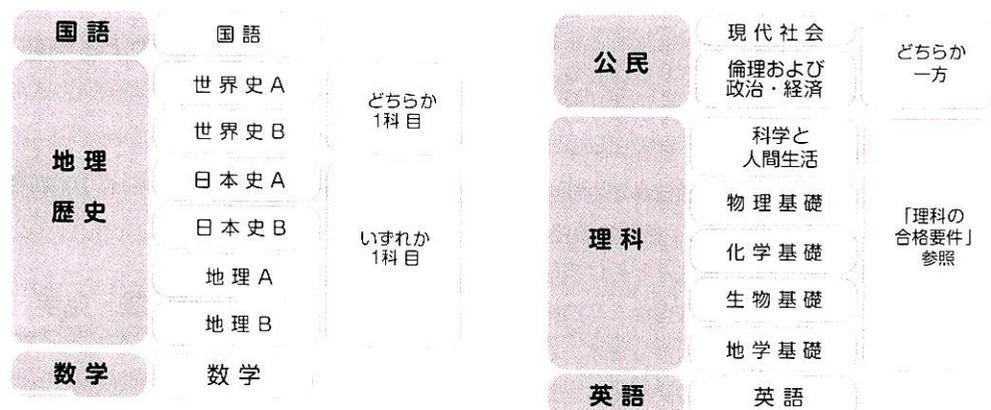
## 生徒からの要望

- 短期間で大学受験資格を得て、大学受験勉強に集中したい
- 大学受験資格を早めに得て、受験までの時間をやりたいことに使いたい
- 改めて基礎から勉強を始めて、大学受験にまでつなげたい

## 高認予備校の対応

- 大学受験のための進学情報や試験対策にも対応しています
- 中学の内容から高認合格大学受験対策までの幅広い学習カリキュラムがあります
- 自分のペースで自由に選択できる講座を開設しています

## 高卒認定試験 合格までの流れ



**理科の合格要件** **合格要件1** 「科学と人間生活」の1科目と、「物理基礎」、「科学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」のうちいずれか1科目の合計2科目 **合格要件2** 「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」のうちいずれか3科目

### 8科目の受験科目に合格

公民で「倫理」および「政治・経済」を選択した場合、理科で「科学と人間生活」を選択しない場合は9～11科目



### 高校での修得単位がある場合 その科目は免除

試験は8月、11月の年2回

**高卒認定試験合格**  
高校卒業同等資格

こちらもお読みください！  
高卒認定試験関連情報

### Ⓜ 高認は“落とす”のではなく実力を見る試験

高認は、ここ数年、毎年延べ約2万数千人が受験しています。受験者数は多いのですが、高認は大学入試などとは異なり“落とす”ための試験ではありません。必要な学力があるかどうかを見る試験です。受験者が多くても実力をつければ合格することができます。試験会場は、各都道府県に1カ所ずつ設けられています。

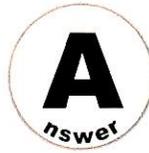
### Ⓜ 高認の合格ラインは45点以上が目安

高認は、試験科目が多いのですが、一度に全部の科目を合格する必要はありません。各科目で合格・不合格を決めていき、いったん合格した科目はそれ以降受験する必要はありません。試験は多くがマークシート方式で行われ、合格ラインは公表されていませんが、高認予備校などの分析によれば45点以上が合格の目安となっています。

★各学校の情報は57ページへ！



保護者や生徒の  
皆さんの不安の声に  
応える



## Q. 通信制高校は何校あり、生徒は何人ぐらいですか？

**A.** 通信制高校は、2017年5月現在で250校(分校を含む)の学校があります。このうち公立校が78校、私立校が172校となっています。生徒数は、公立校約6万人、私立校約12万3千人、全体で約18万人が在籍しています。生徒数の公私比率は、公立約33%、私立約67%という内訳です。生徒の男女比率は、ほぼ半々です。ここ数年で私立通信制高校の学校数が増えたため、ユニークな学校が誕生してきました。

最近では私立通信制高校の間でタブレットPCの活用が広がっています。タブレットPCの活用のねらいは、通信制高校のレポートをうまくこなせるようにすることです。通信制卒業のハードルは、レポートをスムーズにこなすことです。動画や音声をつんだんに取り入れた解説授業を見ながらレポート作成のできるタブレットPC活用は卒業のハードルを引き下げる効果が期待されます。手書き入力のできるタブレットPCも登場しています。

## Q. 通信制高校などからの大学進学はどうなっていますか？

**A.** 通信制高校から大学などへの進学する人は増えています。卒業後の進学率は、大学進学(公立通信制高校10.0%、私立通信制高校17.9%)、専門学校進学(同12.9%、同24.9%)となっています。私立高校の場合は、約44%が進学となっています。本誌で紹介している通信制高校やサポート校では、さらに進学率が高く卒業生の6割から7割が進学を果たしています。このため、大学進学を目指す生徒を対象に「進学コース」なども設けられています。高校から大学などへ推薦枠のある指定校を取る学校も多く、100校以上の大学などからの指定校となっているところも珍しくありません。進学ガイダンスなどを早い時期から行う学校も目立ちます。通信制高校は、海外留学などによる学習も卒業単位として認められます。短期の語学研修から1年以上の本格的な留学まで実施されています。海外の大学進学への道もあります。

## Q. 通信制高校の「進学コース」などには授業料以外の費用がかかりますか？

**A.** 私立通信制高校は、生徒の大学進学志向を反映して「進学コース」や「特進コース」と呼ばれる大学受験指導を行うコースを設ける学校が増えてきました。私立通信制高校は、単位制のため授業料は1単位当たりの費用が決まっています。「1単位費用×履修単位数＝授業料」ということとなります。一般的に、進学コースなどの場合は、この1単位費用とは別に費用がかかります。

通信制高校は、全日制に比べると授業時数という面では少なくなっていますから、志望大学の受験科目に集中するような形で勉強することもできます。通信制高校の進学コースも私立文系、私立理系など大学の受験科目に対応した科目に集中して勉強できるようになっています。指導形態も個別指導、少人数指導などで、生徒のレベルに合わせるができるような形態となっています。

## Q. 通信制高校のスクーリングは、どこで行われるのですか？

**A.** 通信制高校のスクーリングが行われる場所は高校本校、分校、協力校(提携関係を結んでいる他の高校)、スクーリング実施施設などです。どこでスクーリングが行われるかは、その通信制高校を認可した都道府県などによって異なります。広い地域から入学できる高校(「広域通信制高校」と呼ばれます)の場合は、各地に学習拠点を置いています。この学習拠点自体がスクーリングの会場となっている場合もありますが、一般的にはこの学習拠点の近くに協力校やスクーリング実施施設が置かれています。スクーリング実施施設は、専門学校、大学などが代表的です。

集中スクーリングの場合は、本校で行われている例が多いです。

## Q. 「集中スクーリング」だけでも高校を卒業できるのですか？

**A.** 卒業できます。自然の豊かな本校で地域の人たちのサポートも受けながら行われている集中スクーリングは、いろいろな成果をあげています。通信制高校のスクーリングは1年間に20日間程度ですが、インターネットの授業、NHKテレビ・ラジオの高校講座、教科書に準拠したDVD教材などを利用して勉強(「放送視聴」と呼ばれています)すればスクーリングは6割から8割軽減できます。最大8割のスクーリングの軽減が行われた場合には、4日間程度のスクーリングで基準を満たすこととなります。つまり、宿泊により2泊3日から1週間程度の集中スクーリングを行えば、卒業のための基準を満たしていることとなります。

逆の見方からすれば、集中スクーリングを行っている通信制高校は、集中スクーリング以外の期間にインターネットを活用した双方向授業などを行い、生徒とのコミュニケーションをとっています。また、各地の学習拠点で日常的な教育が行われています。

## Q. 通信制は発達障がいへの理解があると聞きますが、実情はどうでしょうか？

**A.** 2002年に文部科学省が実施した抽出調査では、全小中学校の児童生徒の6.3%程度が発達障がい該当すると推計されています。その後同様の調査を全日制高校で行ったところ、2.2%の生徒が発達障がいなど支援の必要な生徒だったとされます。その差の4.1%のうち、15.7%が通信制高校に進んだとみられています。本誌で紹介している通信制高校、サポート校は、これまでも発達障がいの生徒を受け入れてきた実績もあり、発達障がいへの理解には深いものがあります。発達障がいに対する理解が薄い環境では対人関係のトラブルなどにつながるようなケースも多いことから、発達障がいへの理解のあるこれらの学校への期待が年々高まっていると言えます。学習面での課題を理解し、一人ひとりの特性に合った指導でふさわしい進路を一緒に考えるという姿勢が見られます。

step 1 通信制高校生徒と保護者にアンケート  
step 2 安心な進路選択に役立つ情報  
step 3 ニーズに応える！学校紹介  
step 4 進路探しのイベント情報  
step 5 カンタンまとめて資料請求

# 気になる学費などの最新情報



学校を決めるときに無視できないものが学費の問題です。公立と私立では異なり、私立の場合は学校によってさまざま。学校の中でもコースによって金額が変わる場合もあります。2014年4月より「高等学校等就学支援金」制度に変更があり、国公立を問わず就学支援金の対象となりました。

世帯収入によって加算されていた支援金額に上積みが行われる一方で、年収910万円以上の世帯は支給対象外となりました。入学はいくらなのか、授業料以外にどんな費用がかかるのかなどの最新事情を公立と私立、また学校種別に分けて説明します。

POINT ココが気になる！

## 通信制高校の授業料は履修単位数に応じて決まる

通信制高校は、1単位あたりの授業料（公立：336円～700円、私立：6,000円～12,000円）をもとに生徒の履修単位数によって授業料が計算されます。卒業に必要な単位数は74単位以上となりますから3年間で卒業する場合は平均すると年間25単位程度の履修となりますが、履修単位数は生徒の都合によって変えることができるので授業料もそれに応じたものになります。

通信制高校や高等専修学校の授業料も、国からの就学支援金により減額されます。私立通信制高校生への就学支援金は1単位あたり4,812円です。25単位履修した場合は120,300円となり、卒業までに74単位分356,088円が支給されます。高等専修学校は、私立全日制高校同様に年間118,800円が支給されます。

## 就学支援金の支給額



### ■通信制高校（私立）など単位制の高校の場合■

1単位の年間支給額

4,812円

25単位履修した場合

120,300円

卒業までに74単位分支給

356,088円

保護者世帯の所得により1.5～2.5倍を上限とした加算があります。

※所得は、市町村民税所得割額により都道府県が判断します。

### ■全日制高校、高等専修学校などの場合■

年間支給額

118,800円

3年間支給額

356,400円

就学支援金に関する  
お問い合わせ

【文部科学省高校修学支援ホットライン】  
Tel.03-6734-3176 (月～金、10時～17時)



### 奨学金＆教育ローンの利用も検討できます

多くの通信制高校等では学費に関する相談窓口を設けています。特別な窓口がない場合でもしっかりと対応しています。

### ② 公的なものだけではない奨学金

学費の負担を軽減するための方法としては奨学金を活用するという方法があります。公的なものとしては、日本学生支援機構（旧・日本育英会）から各都道府県に移管された奨学金制度があります。各都道府県の担当窓口は文部科学省のWEBサイト内のこちらのページ ([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/05010502/010.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/010.htm)) を参照してください。

民間のものでも、篤志家の意思に基づく寄付等や、民間企業の出資で行われているもののほか、あしなが育英会や財団法人交通遺児育英会などで行っている奨学金があります。

POINT 学校にかかる「学費」(入学年度)

▶学校種別の学費

|       | 私立全日制高校                             | 東京都立全日制高校                         | 高等専修学校                              | 技能連携校                               |
|-------|-------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 入学金   | 250,000円                            | 5,650円                            | 173,000円                            | 12,200円                             |
| 授業料   | 430,000円                            | 118,000円                          | 437,000円                            | 507,000円                            |
| 施設設備費 | 50,000円                             |                                   | 130,000円                            | 79,000円                             |
| その他   | 158,000円                            |                                   | 142,000円                            | 112,000円                            |
|       | 888,000円                            | 124,450円                          | 882,000円                            | 820,000円                            |
| 合計    | <b>769,200円</b><br>(就学支援金118,800円減) | <b>5,650円</b><br>(就学支援金118,800円減) | <b>763,200円</b><br>(就学支援金118,800円減) | <b>701,200円</b><br>(就学支援金118,800円減) |

※ 私立通信制高校は広域制通信制高校25校の平均。私立、公立通信制高校とも25単位履修の場合。学費の内訳・名目は学校によって異なる。学びリンク調べ

▶サポート校の学費

|       | サポート校 平均                         | 1日間通学コース        | 2日間通学コース           | 3日間通学コース        | 5日間通学コース        |
|-------|----------------------------------|-----------------|--------------------|-----------------|-----------------|
| 入学金   | 88,000円                          | 100,000円        | 100,000円           | 74,000円         | 89,000円         |
| 授業料   | 502,000円                         | 180,000円        | 240,000円           | 336,000円        | 544,000円        |
| 施設設備費 | 66,000円                          |                 | 25,000円            | 61,000円         | 70,000円         |
| その他   | 78,000円                          |                 | 25,000円<br>(実習費など) | 77,000円         | 82,000円         |
| 合計    | (29校・54コース平均)<br><b>734,000円</b> | <b>280,000円</b> | <b>390,000円</b>    | <b>548,000円</b> | <b>785,000円</b> |

※ 上記以外に通信制高校の学費が必要 学びリンク調べ

🏠 自治体や学校独自の制度も

都道府県や市町村奨学金制度がある学校もあります。自治体が独自に行うものでは、「定時制課程及び通信制課程修学奨励資金」(茨城県)などの名称で、通信・定時制高校の生徒に対して奨学金を貸与し、卒業すれば返還免除という制度もあります。

また学校独自のものとしては、「兄弟が在籍する場合は入学金免除」「自己推薦入試で入る生徒に対しては入学金免除」など、さまざまな取り組みが行われています。詳細は各校に問い合わせてください。

2014年度からの入学生対象に、国の制度として「高校生等奨学給付金」が創設されました。

🏠 教育ローンも活用できます

奨学金以外の学費調達方法として、教育ローンがあります。公的なものでは日本政策金融公庫が「国の教育ローン」(<https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html>)として行っているものがあり、融資限度額は300万円、返済期間は15年(交通遺児家庭または母子家庭の方は18年)となっています。

民間のものでは銀行が行っているものや信販会社などが行っているものなどもあり、それぞれ条件なども異なります。また、学校によっては金融機関などと提携して独自教育ローンや学費の分納制度を行っている学校もあります。